

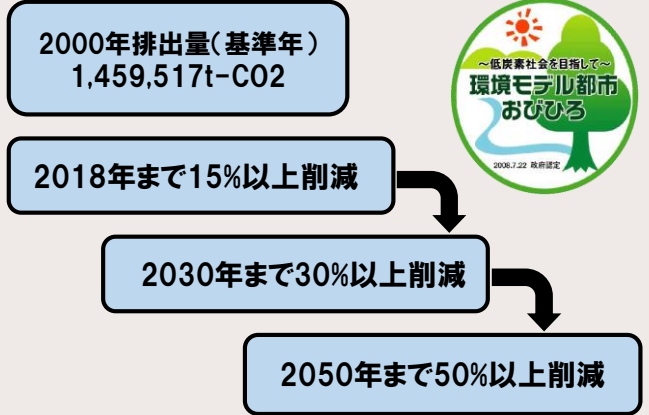
自治体の概要

- ・人口:166,867人
(H30.3月末現在)
- ・面積:619.34km²
- ・豊かな自然に恵まれ、都市と農村が調和したまちである。世界で唯一のばんえい競馬が行われている。



取組ビジョン・計画・体制

CO₂削減目標



ライフスタイルの変革、再生可能エネルギーの活用などにより環境と産業を両立

特徴的な取組の概要

帯広らしい環境教育プログラム

人と自然が共生する社会を次代に引き継いでいくため…

「できることから実践する人」づくり



- ①「実感」「理解」「実践」を、らせんのようにつなげよう。
- ②豊かな自然など、地域の資源を生かした取組みにしよう。
- ③子どもたちの主体的な学びを大切にしよう。

帯広らしい
3つの視点

全36プログラム。組み合わせは自由に行える。



「自然観察」学習



「温暖化問題」学習



「ゴミリサイクル」学習



「農業体験」学習

環境にやさしい活動実践校



平成29年度
全41校の認定が完了！！

環境省
「グッドライフアワード2018」
実行委員会特別賞受賞！！

学校のできる環境活動の仕組みをつくり、みんなで取り組んでいる学校を、市及び市教育委員会が「環境にやさしい活動実践校」として認定しています。

各学校が地域などと連携しながら環境活動を行っています。

自治体の概要

- 人口:61,875人
- 面積:11.66km²



政治・経済の中心地である一方、
自然豊かな皇居を擁する

取組ビジョン・計画・体制

環境モデル都市行動計画

行動計画推進における「3つの柱」

- ☑高水準な建物の
エネルギー対策の推進
- ☑まちづくりの機会と
場を活かした
面的対策の推進
- ☑地域連携の推進



特徴的な取組の概要

千代田区建築物環境計画書制度(H28.10改正)

目的:建物を新築する際に、更なる省エネ対策を促す

対象:延床面積300m²以上の建築計画

内容:建築計画を決定する前に区と事業者が省エネに関する協議を行う

目標:建築物省エネ法の基準よりさらに35%の一次エネルギー消費量削減

評価:35%削減『特別優良環境建築』 20%削減『優良環境建築』

実績:35%削減14件 20%削減48件

(H28.10~H30.3 届出数132件)

千代田区は
省エネビルを
評価します!



自治体の概要

- ・人口:約800,000人
- ・面積:726.45km²
- ・土地利用:農地割合45%
- ・食料自給率:63%



↑くるさき茶豆



新潟産コシヒカリ



↑萬代橋とチューリップ

取組ビジョン・計画・体制

新潟市環境モデル都市アクションプラン

市街地と田園地域とで豊かな価値を循環させ、都市全体が調和ある発展を遂げるまち「田園型環境都市」をめざす。

田園型環境都市

田園環境の保全・持続可能な利用

スマートエネルギーシティの構築

4つの基本方針

低炭素型交通への転換

低炭素型ライフスタイルへの転換

特徴的な取組の概要

「新潟発 わくわく教育ファーム」の推進

子どもたちや市民に農業体験をとおして農業や食に対する理解を深めてもらい、ふるさとへの愛情や誇り、生きる力を培うとともに農業の活性化を促進。
学習指導要領に準拠した「アグリ・スタディ・プログラム」を農林水産部と教育委員会が協働で作成し、市内全ての小学校で実施中。



目指す姿

農業を応援

農家

農業の活性化

子ども・市民

農業を通じた人づくり

農業を通じた学びの提供

活動場所

アグリパーク

- ・全国初の公立教育ファーム
- ・宿泊施設完備、滞在型の体験可能
- ・6次産業化を支援
- ・五感を使う体験プログラムを提供



いくとびあ食花

- ・食と花の魅力を全国に発信する施設
- ・様々な体験プログラムを提供



学校教育田
学校教材園



自治体の概要

- ・人口:102,012人 (H30.3.31現在)
- ・面積:658.66km²
(森林面積割合84%)
- ・年間日照時間:2,242.2時間
(2018年)
- ・太陽光発電普及率:9.4%
(H30.3.31現在)



南信州を代表する特産物「市田柿」 全国一焼き肉店の多い街 (人口1万人当たりの焼き肉店舗数 5.31軒)

取組ビジョン・計画・体制

いいだ未来デザイン2028

リニアがもたらす大交流時代に「暮らし豊かなまち」をデザインする
～合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台～

市民・地域・事業者・NPO・行政等の多様な主体が連携した飯田のまちづくりの指針に加え、地域の将来像実現に向け、戦略的にチャレンジしていくための総合計画。

目指すまちの姿

- ・私らしい暮らしのスタイルを楽しむまち
- ・人と人がつながり、安全安心に暮らせるまち
- ・健やかにいきいきと暮らせるまち
- ・学びあいにより生きる力と文化を育むまち
- ・地域の応援で子育ての幸せが実感できるまち
- ・人と自然が共生する環境のまち
- ・持続的で力強く自立するまち
- ・地域の誇りと愛着で20地区の個性が輝くまち



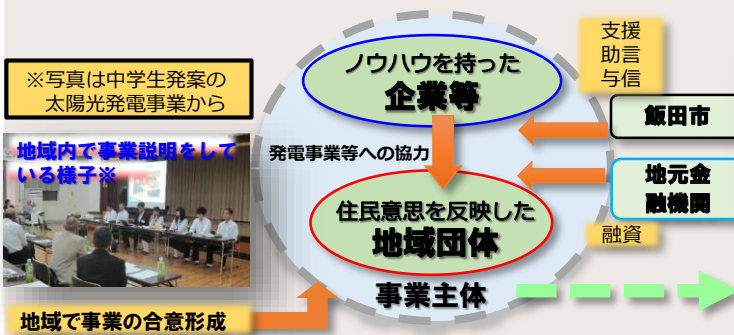
市民 地域 事業者 行政

「当事者意識」と「共創」によるまちづくり

特徴的な取組の概要

飯田市地域環境権条例を活用した地域主導型再エネ事業

地域環境権条例により、10の太陽光発電事業と2つの小水力発電事業が現在行われている。売電収益は、地域課題解決のための活動経費に充てられ、地域住民自ら活発な取組が行われている。



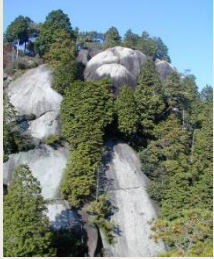
地域ぐるみ環境ISO研究会が行う地域独自の環境配慮への取組

飯田市を中心とする南信州地域における環境マネジメントシステム(いいむす)の取組と研究は、意欲ある民間企業が主導し、「地域ぐるみ環境ISO研究会」として活動している。この研究会により展開されている、この地域独自の「いいむす」「南信州いいむす21」には50団体が参加し、産業界の環境負荷低減活動を地域全体に広げ、「地域ぐるみ」で省エネを推進している。



自治体の概要

- ・人口:約18,500人
- ・面積:56.69km²
(内、約6割が森林)
- ・魅力:中山道の宿場町として栄えた歴史と自然豊かなまち



▲ 名勝 鬼岩公園の巨岩



▲ 可憐に咲く ササユリ



▲ 新たな郷土食 みたけ華ずし

取組ビジョン・計画・体制

目指す環境モデル都市像

地域資源を活かした低炭素コミュニティ
“みたけ”の実現イメージ (町行動計画より)



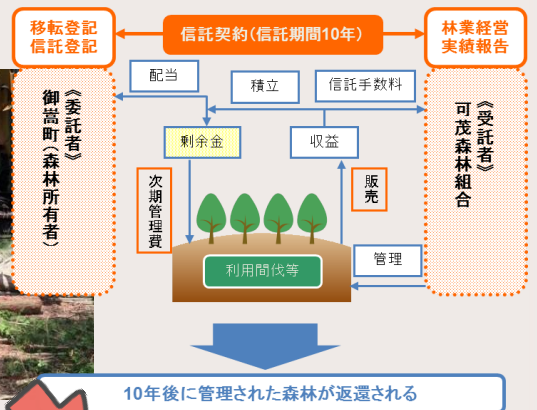
特徴的な取組の概要



低炭素なまちづくりを目指して



まちが目指す環境モデル都市像の実現のため、住民・事業者・行政が連携・協力しながら各施策を展開中！



自治体の概要

- ・人口：約147万人
- ・面積：827.8 km²



取組ビジョン・計画・体制

環境共生と低炭素のまち・京都

温室効果ガス排出量の削減目標

2020年度 25%削減（1990年度比）

2030年度 40%削減（1990年度比）

京都市が実現を目指す6つの社会像

- 社会像1 人と公共交通優先の歩いて楽しいまち
- 社会像2 森を再生し、「木の文化」を大切にすまち
- 社会像3 エネルギー創出・地域循環のまち
- 社会像4 環境にやさしいライフスタイル
- 社会像5 環境にやさしい経済活動
- 社会像6 ごみの減量

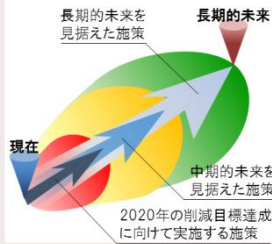
特徴的な取組の概要

環境にやさしいライフスタイルへの転換とまちづくりの推進

「環境にいいことしていますか？」を意味する「DO YOU KYOTO？」を合言葉に、環境にやさしいライフスタイルへの転換やまちづくりを推進するとともに、地球温暖化対策の模範となる取組を世界に発信し、世界の自治体と連携して地域レベルでの取組を推進しています。

プロジェクト“0”への道

今世紀後半での温室効果ガス排出量実質ゼロの達成に向け、長期的未来を見据えた戦略「プロジェクト“0”への道」を計画に掲げ、取組を推進しています。



人と公共交通優先の歩いて楽しいまちづくり

公共交通の利便性向上、歩く魅力を最大限に味わえる歩行者優先のまちづくり、歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換により、「歩くまち・京都」の実現を目指しています。



体験型水素学習

再生可能エネルギーから水素を製造するスマート水素ステーションとFCVの仕組みを学んだ後、FCVに試乗する体験型水素学習事業を実施しています。



こどもエコライフチャレンジ

子供たちが学習会を受けた後、「子ども版環境家計簿」を使い、家族で環境に配慮した生活を家族で学び、実践する「こどもエコライフチャレンジ」を、全ての市立小学校で実施しています。



自治体の概要

・人口:451,425人

・面積:50.72km²

尼崎市は、「コンパクトな市域における産業機能・都市機能の集積」が大きな強みとなっている。コンパクトながらも様々な顔をあわせ持っており、それぞれの魅力を楽しむことができる。

臨海部工場夜景

臨海工業地域には、最先端技術を有する大企業や中小企業が立地。

コスモス園

北部には自然林や田園風景が広がっている。

駅前の商店街

駅前には、活気あふれる商店街などの商業施設が形成。



取組ビジョン・計画・体制

ECO未来都市尼崎

尼崎市は過去に深刻な公害を経験したが、産業界・市民・行政の努力で克服してきた。その過程で生まれた企業・市民の高い環境意識と民産学公のつながりを背景にECO未来都市実現を目指している。

市民



あまがさき環境
オープンカレッジ

行政

- ・尼崎21世紀の森づくり協議会
- ・自然と文化の森協会
- ・・・等多数の市民団体

- ・尼崎版グリーンニューティール
- 「ECO未来都市・尼崎」宣言

「ECO未来都市あまがさき」に向けた連携

大学等

- ・大阪大学
- ・兵庫県立大学
- ・産業技術短期大学
- ・環境学園専門学校
- ・小・中・高等学校

産業界

- ・尼崎商工会議所
- ・尼崎経営者協会
- ・尼崎工業会
- ・尼崎地域産業活性化機構
- ・地域金融機関・・・等

特徴的な取組の概要

尼崎版スマートコミュニティの取組

尼崎版スマートコミュニティの推進

一定規模以上の住宅開発に際し、HEMSを導入し、それを活用した地域におけるエネルギーマネジメントシステムに関する取組を実施するとともに、その取組を活用した地域経済の活性化につながる仕組みづくりが構築されている街を、「尼崎版スマートコミュニティ」と認定し、支援しています。

スマートコミュニティの波及効果

第1号認定事業であるZUTTOCITYではDR（ダイヤモンドリスパンス）の要請時に、エアコンを消して外出し、地域通貨加盟店で買い物をした方に通常の2倍のポイントを付与しています。ポイントは加盟店にて1P=1円で利用でき、電気使用量の削減効果と地域経済の活性化の両方で一定の効果が得られました。

1 DR実施による省エネ効果

4期分のDR効果は-70,371 kWhとなり、電気使用量が約10%削減できました。HEMS等によるハード整備とDR要請によるソフト整備の両面により、一定の効果があつたものと考えられます。

2 DR実施による経済効果

加盟店における支払い1回あたりの地域通貨ポイント付与対象金額について、DR実施日の方が非該当日よりも1回あたりの買い物等における支出が高い傾向がみられ、平成28年度夏では1回あたり約1,400円の差がありました。

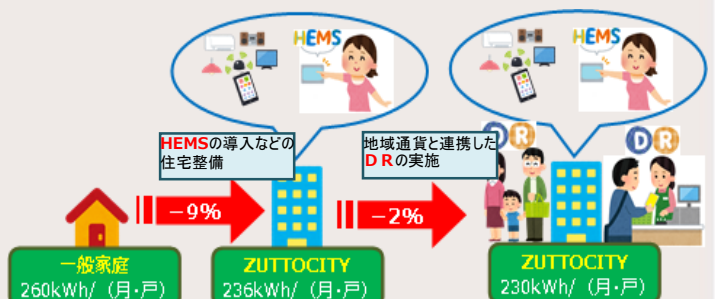
3 一般家庭との比較

一般家庭の月あたりの電気使用量は、約260kWh（平均的なモデルによる月間使用量、出典：関西電力株式会社）とされていることから、ZUTTOCITYでは、一般家庭に比べて電力の見える化等DR以外の取組により月あたりの電気使用量が9%減少しました。さらにDRの取組効果2%を加えると、11%の電気使用量を削減できました。

表 地域通貨ポイントの付与状況

時期	夏季 7月～9月(平日) 13時～16時		冬季 12月～2月(平日) 13時～21時					
	H28	H29	H28	H29				
該 当 日	ポイント付与対象金額※(円)	428,485	332,500	1,037,698	1,073,448			
	ポイント付与回数(回)	277	313	287	409			
	①支払い1回あたりのポイント付与対象金額(円/回)	1,547	1,062	3,616	2,625			
非 該 当 日	ポイント付与対象金額※(円)	359,371	293,395	1,717,102	1,669,863			
	ポイント付与回数(回)	320	303	779	616			
	②支払い1回あたりのポイント付与対象金額(円/回)	1,123	968	2,204	2,711			
DR要請による効果(①-②)(円/回)					+424	+94	+1,412	-86

※ポイント付与対象金額は付与ポイントから算出



自治体の概要

- ・人口:約1,527,390人
- ・面積: 557.02km²
- ・主な産業:製造業、サービス業、ファッション産業等



取組ビジョン・計画・体制

神戸市環境マスタープラン

自然と太陽のめぐみを未来につなぐまち・神戸を目指して、4つの基本方針のもとに施策を推進。

4つの基本方針

- 1.二酸化炭素の排出が少ない
くらしと社会を目指します
- 2.資源を有効利用し、ごみができるだけ発生しないくらしと社会を目指します
- 3.生物が多様で豊かな
くらしと社会を目指します
- 4.安全・安心で快適な生活環境のある
くらしと社会を目指します

特徴的な取組の概要

環境貢献都市KOBEOの推進

3つの柱を中心に、「二酸化炭素の排出が少ないくらしと社会」の実現を推進しています。

省エネルギーの推進

KOBE COOL CHOICEの推進



市民・事業者への啓発イベント等の実施。

コミュニティサイクル(コペリン)



LED照明



再生可能エネルギーの普及

木質バイオマスの活用



森林整備による伐採材等を地域エネルギーとして活用。

こうべバイオガス



下水処理過程で発生する消化ガスを発電などに有効利用。

革新的技術開発の推進

水素サプライチェーン構築実証事業



提供:HySTRA

海外にて液化水素を製造・海上輸送し、日本で荷揚・供給を行う水素供給システム。

水素エネルギー利用システム開発



出典:川崎重工業(株)

水素と天然ガスを燃料とする発電所を整備し、公共施設に電気・熱を供給するシステム。

※NEDO(国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)の補助採択を受けた実証事業で地元企業等と連携して実施。

自治体の概要

- ・人口:約120,132人
(H31.1.1現在)
- ・面積:約53km²
- ・住宅都市でありながら、生駒山系に象徴される豊かな自然環境が生駒市の魅力だ。



伝統工芸品「高山茶釜」

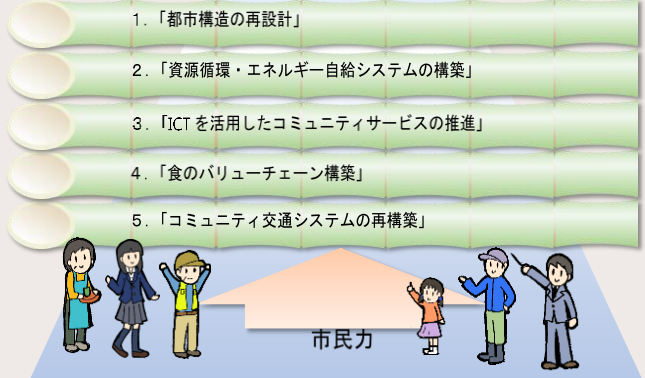


生駒山

取組ビジョン・計画・体制

取組の5つの柱

＜生駒市の将来像＞
～市民・事業者・行政の“協創”で築く低炭素“循環”型住宅都市～

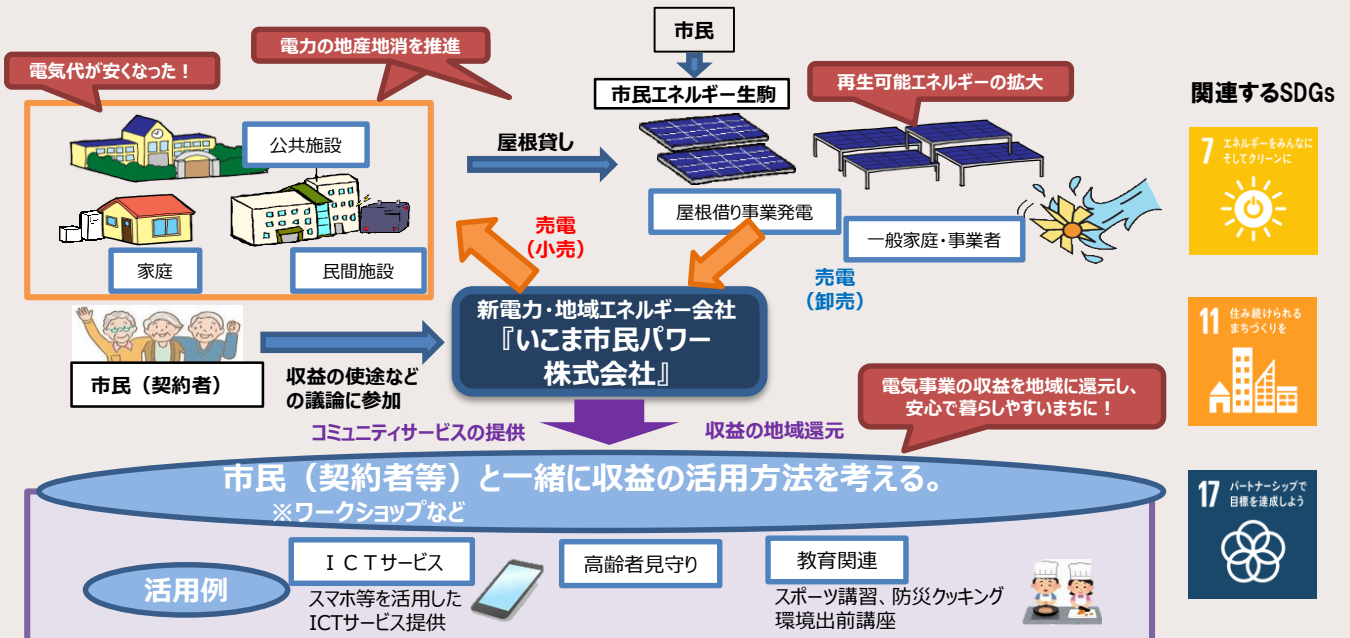


特徴的な取組の概要

いこま市民パワー株式会社の設立

生駒市、市民団体、事業者などが出資し、地域課題の解決等を目的とする地域エネルギー会社を設立。収益を地域へ再投資し、市民生活の質的向上に繋がるコミュニティサービス等を提供する。

また、卒FIT電源の積極的な買い取りなど、エネルギーの地産地消を推進するとともに、将来的には地域内のエネルギーマネジメントの核として機能をする事により、生活総合支援事業としての日本版シュタットベルケモデルの構築を目指す。

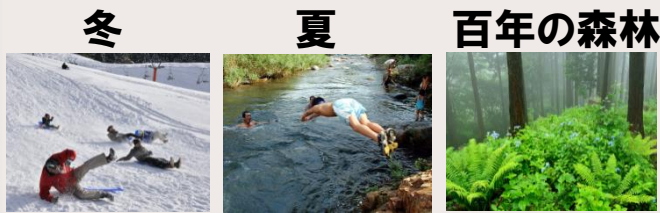


関連するSDGs



自治体の概要

- 人口:1,468人
- 面積:57.93km²
- 土地利用:山林95%、
田宅地ほか5%
- 主な産業:林業・観光



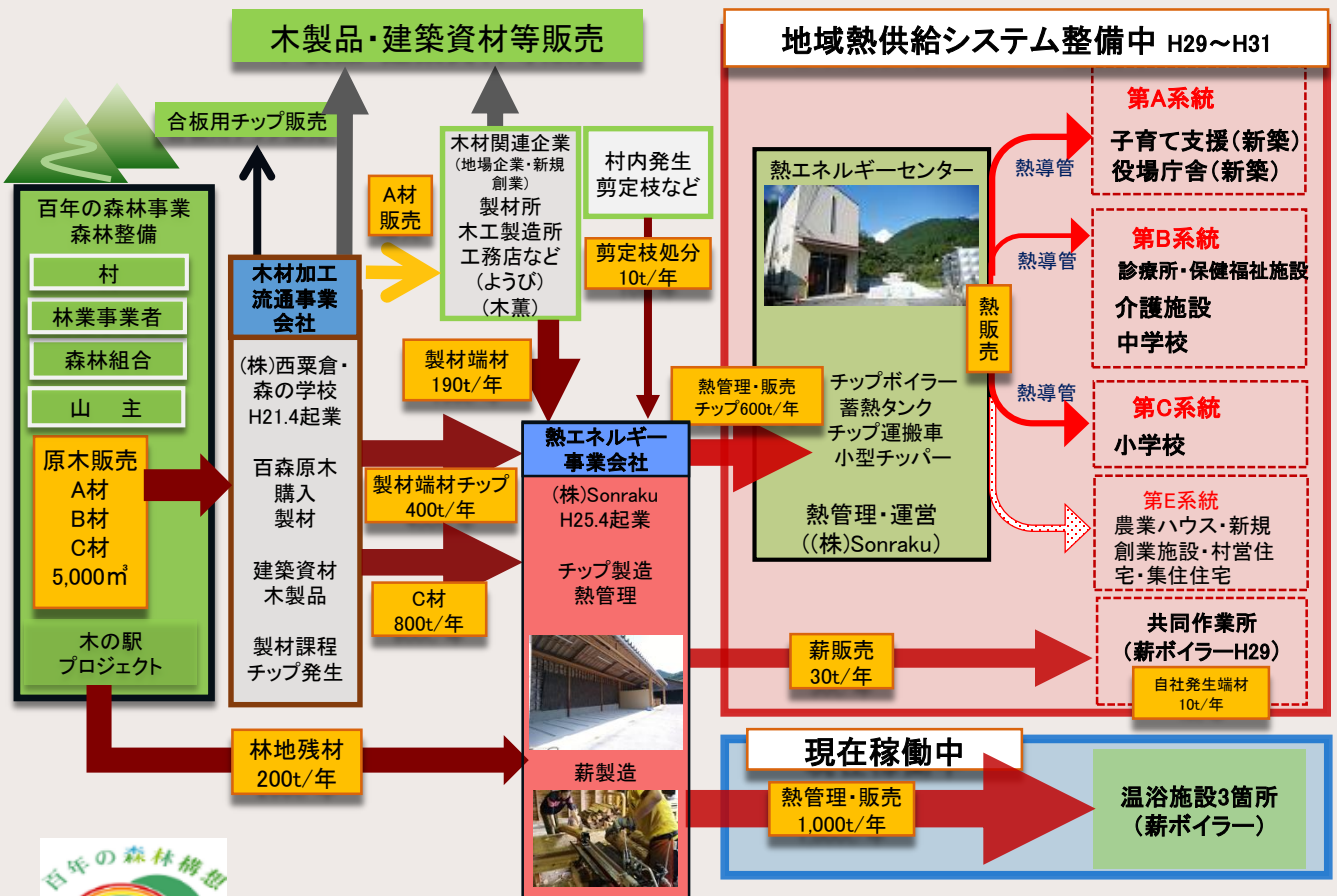
取組ビジョン・計画・体制

百年の森林事業(概要)



特徴的な取組の概要

森林資源のカスケード利用(木質バイオマス熱利用)



自治体の概要

- ・人口:約510,809人
- ・面積:429.40km²
- ・主な観光地:道後温泉・松山城
- ・名産品:紅まどんな、せとか など



道後温泉



松山城



紅まどんな

取組ビジョン・計画・体制

誇れる環境モデル都市まつやま

松山サンシャインプロジェクトの推進

スマートコミュニティの推進

歩いて楽しい健康増進の
まちづくりの推進

地域循環システムの推進

➡ 持続可能な低炭素社会を構築する

特徴的な取組の概要

松山スマートシティ推進事業

- 島しょ部(中島地域を)をフィールドに、可能性調査や実証事業を段階的に実施。
- BEMSや太陽光発電遠隔監視システムなどを導入し、得られたデータやノウハウを活用しながら計画的に市域全域でエネルギーの効率化、スマートシティ化を目指す。

H26

再生可能エネルギーの
導入に向けた可能性調査を実施

H27

産学民官で組織する
協議会で検討



H28

中島支所にBEMSを導入



H29

中島総合文化センターに
太陽光発電遠隔監視システム設置
太陽光パネルの増設(10kW)



創る PV、遠隔監視

太陽の恵みと再生可能エネルギーが調和する

E-島(いいしま)“中島”

賢く使う

BEMS



貯める

E
V



自治体の概要

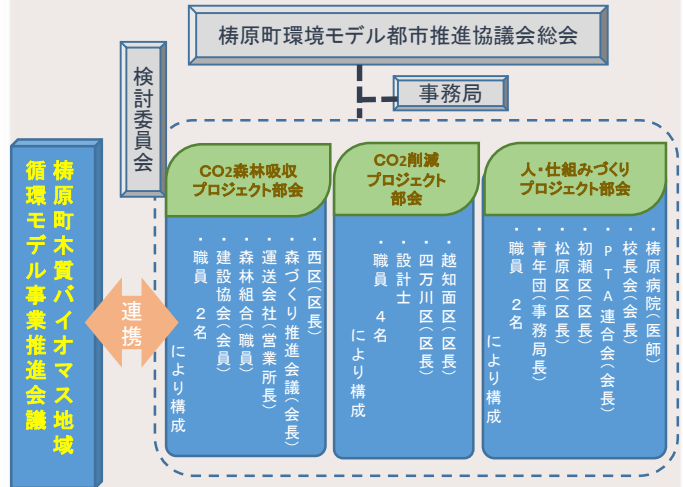
- ・人口:3,542人(H30.12末)
- ・面積:236.51km²
- ・土地利用割合:林野91%、
田0.7%、
畑0.6%
- ・主な産業:林業、建設業



取組ビジョン・計画・体制

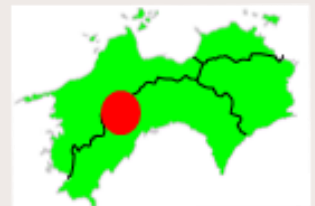
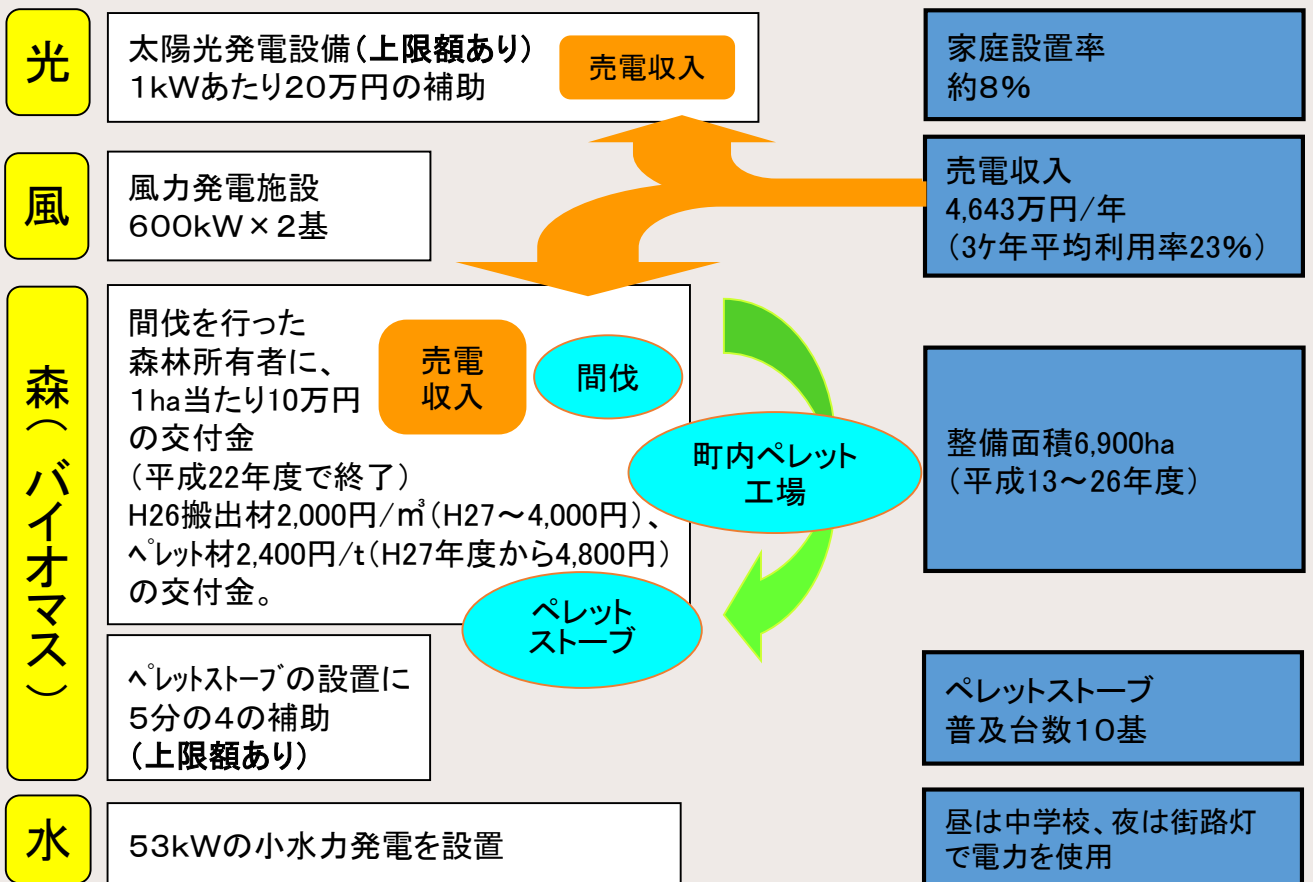
行政、町民、企業等の役割

梼原町環境モデル都市推進協議会



特徴的な取組の概要

再生可能エネルギーのベストミックスと2つの循環



自治体の概要

- ・人口:24,859人
(H30.5月末現在)
- ・面積:163.29km²

不知火海を望むリアス式の湯の児海岸や、歴史情緒溢れる温泉街、環境をテーマとした施設などが見どころ。



サラダたまねぎ



みなまた茶



湯の鶴温泉

取組ビジョン・計画・体制

水俣環境アカデミア

高等教育・研究活動拠点施設として、平成28年4月に設立

◆ 水俣環境アカデミアの理念

《地域への貢献》

・産学官民を有機的につなぎ、新たな知を創造・発信し、地域活性化に貢献する。
(ひとづくり、まちづくり、しごとづくり)

《世界への貢献》

・水俣地域の知識、知恵、教訓を集約し、世界に向けて持続可能な社会の実現のための解決策を示す。

特徴的な取組の概要

水俣市におけるSDGsの取組

◆ シンポジウムの開催

・九州大学馬奈木教授による、GDPに代わる新たな経済的指標である「新国富」を用いた、水俣の持続可能性評価に関する講演及びパネルディスカッションを実施



◆ SDGsフィールドワークの実施

・文部科学省よりスーパーグローバルハイスクールに認定された水俣高校の生徒が、海外からの留学生等に地域の取組をSDGsに基づき説明

慶應義塾大学及びASEAN諸国の大学の学生による水俣現地フィールドワーク



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



6 安全な水とトイレを世界中に

水俣高等学校の生徒がフィールドワーク先を選定

棚田

社会福祉施設

簡易水道・RSL尿処理工場・合併処理浄化槽

◆ 市民公開講座の開催

・健康、環境、食育など住民の暮らしに身近で役に立つ内容とし、各テーマごとにSDGsの項目に当てはめながら、持続可能な地域社会の形成に向けた講座を開催



スーパーグローバルハイスクールの水俣高校の生徒が英語で案内



持続可能な地域社会の構築

自治体の概要



・人口:約55,000人

・面積:205.00km²



イメージキャラクター「みーや」

- ・主な産業:農林水産業、観光業
- ・主要作物:サトウキビ、マンゴー



風力発電 (狩俣)



マンゴー



サトウキビ

取組ビジョン・計画・体制

エコアイランド宮古島宣言2.0

「 千年先の、未来へ。 」

エコアイランド宮古島宣言
(平成30年3月30日)



エコアイランド宮古島が目指すゴール

- 2030・2050年の目標値5つの指標を設定
- 1. 私たち市民は、島の生活を支えるかけがえない地下水を守ります。
 - 1. 私たち市民は、美しい珊瑚礁の海を守ります。
 - 1. 私たち市民は、みんなの知恵と工夫で、限りある資源とエネルギーを大切にします。
 - 1. 私たち市民は、ゴミのない地球にやさしい美(か)ぎ島(すま)宮古(みや〜く)島(ずま)を目指し、一人ひとり行動します。
 - 1. 私たち市民は、緑・海・空を守り、すべての生物が共に生きていける環境づくりのため行動します。
 - 1. 私たち市民は、よりよい地球環境を取り戻し、守るため、世界の人々とともに考え・行動し、未来へバトンタッチします。

特徴的な取組の概要

宮古島市島嶼型スマートコミュニティ実証事業

- 安定的、持続的、低コストなエネルギー供給による自給率向上を目指す。
- 実現には、低価格化した太陽光発電の大量導入が有効。
- 離島は、小規模系統のため、需給バランス調整力に課題が顕在化。
- IT/IoTを活用し、太陽光発電やHP給湯機等の設備を面的に制御。
- 太陽光発電の主要電源化と需要側調整力を検証する。

